

「地域との連携を深める防災教育」
—子どもの安全を守る—

南房総市立和田中学校長 小柴 信弘

1 学校の規模及び地域環境

南房総市立和田中学校は、太平洋に面する房総半島南端の南房総市和田町を学区としており、平成24年度は、生徒112名、職員23名の小規模校である。本校では、県立安房拓心高校の協力を得て花の栽培を行い、高齢者宅に配る「花いっぱい運動」を伝統とし、地域との交流に重点を置いた、開かれた学校づくりに積極的に取り組んでいる。また、学区には高等学校1校のほか小学校が2校あり、学区内の小・中・高が連携した教育の実践を継続している。

和田地区は低地部及び山間部で、液状化や土砂災害の発生が心配されている。また、海岸部では元禄地震の津波による被害を受けた経験があり、津波危険区域に指定され、さらに平成23年度は南房総市防災対策事業の重点地区に指定された。

本校は平成23年度千葉県教育庁教育振興部学校安全保健課の「地域との連携を深める防災教育公開事業」の指定を受け、学校が行う防災教育を地域と連携して、公開することを通して防災に対する学校と地域住民の取組を近づけることを探っている。平成23年3月11日の東日本大震災発生時は、卒業式の練習で全校生徒が体育館におり、一旦体育館中央に一次避難、その後校庭に二次避難した。

さらに大津波警報発令を受け校舎3階に再避難した。3階から海を見ると、潮が引いているのがわかり、津波の危険を感じた。また、海岸から避難してきた人や地域の人も数名3階に避難してきた。足の不自由な人もおり、職員がおぶって3階まで上がった。安全確認後、保護者に連絡を取り、全生徒が帰宅したときは日が暮れていた。この体験から地域の人も含めた普段の防災意識を高めていくことの必要性を実感した。学校で子どもの命を守るには、第一は教職員の士気を高く保つこと、第二は保護者を巻き込むこと、第三は子どもたちに生きた総合的な防災訓練を実施すること、第四は地域を巻き込むことが必要であり、本校では、これらに重点を置いた防災教育に取り組んでいる。

2 取組のポイント

防災教育公開事業の指定を受け、以下の内容について実施した。

- (1) 学校と地域住民の参加による合同防災訓練の実施
- (2) 災害発生時の学校と地域住民の行動や役割の検討及び活動の実施
- (3) 安全マップづくり等防災・安全意識の向上を図る集会の実施

【地域連携】 23年度指定校 ②南房総市立和田中学校

3 取組の概要（平成23年度）

実施時期	計画事項	参加者
4月	・避難訓練(火災) ・交通安全教室 ・安全マップ作成	生徒・職員
5月	○防災教育講演会	学校・市防災担当者等
6月	○地域お年寄り宅訪問	全校生徒
7月	○南房総市災害時職員集合訓練	学校・市防災担当者等
8月	○南房総市和田中学校合同防災訓練	学校・消防署・市防災担当者等
10月	○地域お年寄り宅訪問	全校生徒
11月	○防災教育授業公開、 防災教育講演会、 教育ミニ集会	全校生徒・職員、地域住民他
12月	○お年寄り介護体験	1・2年生徒
1月	○ワンポイント避難訓練	全校生徒

7名、保護者及び地域住民15名



(防災教育講演会)

小野寺先生は、宮城県気仙沼市出身で東日本大震災でご両親が被災された。被災地の状況を生々しい映像を交えてお話をいただいた。津波の映像では、実際に撮影した場所の位置や高さ、レンズの向きなど詳細に説明され、生徒や保護者の方々は映像を食い入るように観ていた。

生徒の感想

「講師の先生のお話を聞いて、津波がきてから逃げるのは無理なんだなと思いました。いつ来てもいいように高台に避難しておいた方が良い。」「動画を見て、本当に怖かったです。絶対に逃げていきたいです。3年間に大きな地震があるかもしれないので津波の避難訓練をしておきたいです。」

4 担当者連絡会議（平成23年度）

	氏名	所属及び役職
1	松本 純	南房総市消防防災課
2	鈴木将人	南房総市消防団
3	宮澤 智	南房総教育事務所
4	石崎克也	安房分室
5	森 哲夫	和田町海発区長
6	矢野哲司	南房総市教育委員会
7	吉野芳明	和田中学校教頭
8	田中重実	和田中学校教諭

(2) 南房総市合同防災訓練

平成23年8月28日実施

訓練場所 南房総市和田地区

主会場 南房総市立和田中学校

千葉県立安房拓心高校

参加者 和田地区住民、和田中学校生徒職員、航空自衛隊第44警戒隊、

安房消防館山消防署、和田分遣所、

館山警察署、千倉町LPガス保安協会、南房総市消防団、南房総市

会、南房総市消防団、南房総市

① 津波警報想定避難訓練

ア 地区住民（津波警報想定）

各地区から和田中学校へ住民の避難

イ 本校生徒（大津波警報想定）

5 具体的な取組

(1) 防災教育講演会

平成23年5月20日実施

講師 南房総教育事務所

小野寺源彦 先生

参加者

全校生徒125名、教職員22名、事業関係者

【地域連携】 23年度指定校 ②南房総市立和田中学校

3月11日の東日本大震災を受け、大津波警報発令時の避難場所を近隣で一番高い建物である安房拓心高校へ変更し、実際の経路確認の避難訓練を行った。和田中学校校庭に避難後、安房拓心高校4階へ避難した。約8分で避難完了した。



(安房拓心高校への避難訓練)

② 給水管破裂時の復旧訓練

水道工事業者による給水管の復旧工事を見学した。

③ 油鍋火災の消火及びLPガス消火訓練



(油鍋消火訓練) LPガス保安協会の説明の後、実際に地域住民の方と代表の生徒が油鍋火災及びLPガスボンベ消火訓練を実施した。ガスボンベの消火では火の勢いがすごく生徒は真剣に消火器を扱っていた。

④ 航空自衛隊第44警戒隊による被災家屋からの救出訓練

インパルス銃による消火訓練及び被災家屋からファイバースコープによる探査・救出訓練を見学した。

⑤ 高所救出訓練(見学)及び高所脱出訓練

館山消防署による校舎3階からの救出訓練を見学した。また、代表の生徒が避難用シュートからの脱出訓練を行った。



(校舎3階から救出訓練及び脱出訓練)

⑥ 防災食の試食

昼食として防災食の試食をした。(水を入れ1時間で食べることができる五目ごはんとビスケット、ミネラルウォーターの3点)



(防災食と試食のようす)

生徒の感想

・避難訓練

「実際こういうことがあったらとても役に立つことばかりでよかったです。」「避難は落ち着いて、速くにげることが大切だと思った。(津波は特に)」「家に非常袋があるかどうか帰ったら確認します。」

・消火訓練

「とても勢いよく燃え上がり、黒い煙もでていて改めて火が怖いと思った。」「消火する時にちゃんと消えていたからすごかった。ガスは消火したらすぐ栓をしめる事がわかった。」

・避難用シュートによる脱出訓練

「実際にやって便利さがわかった。ただ”摩擦”がきつい。」「高い所から降りるのは怖いけど、いざとなったら降りなきゃいけないのかなあ」「あの袋をいつか使うときがくるのかと思った。」

・防災食

「冷たく、量も一回ぶん程度なのでもっとたくさん準備して、ガスコンロもあると便利そうです。」「被災した方は、こういう物を食べているんだと思った。」

(3) 防災教育公開事業

平成23年11月17日実施

【地域連携】 23年度指定校 ②南房総市立和田中学校

① 出前授業

「緊急地震速報への対応と訓練」

参加者 和田中学校生徒125名

教職員20名

授業内容

銚子地方気象台の大島幸雄先生による「緊急地震速報への対応と訓練」の授業を行った。地震の発生のしくみや緊急地震速報対応行動訓練映像を使つての1次避難訓練、ペットボトルによる液状化の実験などについて学習した。

生徒の感想

「3月11日は体育館にいたからあまり揺れなかったけど、校舎にいたら二階だからもっと揺れたと思うと…とても怖いです。今日の授業はすごく自分のためになりました。」

防災教育授業「緊急地震速報の対応と訓練」

2年 A組 番氏名

授業でわかったこと

地震の起こるしくみや、理科の復習に
よかったです。地震の分布図を見たけど、
日本はあまりにプレートが2枚くらいあるので、
地震がとて多かったです。
緊急地震速報の対応については、日頃から
速報が出たらドアを開けて、おれの下に入るように心がけてい
るので、こまからもつづけたと思います。
ペットボトルの実験がおもしろかったです。



(出前授業のようす)

② 防災教育講演会

演題：「災害から身を守るために」

講師：銚子地方気象台長 土井雅彦先生

参加者：和田中学校生徒125名 教職員
20名 保護者・地域住民40名 教育関係者
30名



(防災講演会のようす)

銚子地方気象台長の土井雅彦先生の「災害から身を守るために」の講演をいただき、災害への対応の仕方や考え方を学習した。

③ 教育ミニ集会

テーマ「地域防災を考える」

参加者 保護者、地域住民 40名

教育関係者30名

アドバイザー 銚子地方気象台4名



(教育ミニ集会のようす)

「地域防災を考える」のテーマで教育ミニ集会を実施した。

- ・地域防災に関して県内各地との情報交換の場となった。
- ・地域により防災への取組の実情・課題・違いが見えてきた。
- ・グループ別の活発な意見交換により生徒の安全のための公的施設の立地環境やもしもの時の対応について活発な意見交換ができた。
- ・地域防災意識の向上に向けた具体的な取組が期待される中、生徒が防災教育を受けることの重要性が再認識できた。
- ・上記(1)～(4)を通して、学校、家庭、地域の相互の連携を一層深めることができた。

【地域連携】 23年度指定校 ②南房総市立和田中学校

(4) 独居老人宅訪問

平成23年6月13日

平成23年11月14日実施

全校生徒125名

安房拓心高校の協力を得て年2回、パンジーやサルビアの栽培を行い、地域の高齢者宅に配布している。



(配布の説明と訪問のようす)

地域の高齢者との交流を図るとともに災害時の話相手や介助の手助けなど共助の一つとなることを目指している。

(5) お年寄りの介助体験

平成23年12月6日実施

参加者1・2年生 78名



(車いすの操作・起きあがらせ方)

和田地区は高齢化率が最も高く、独居老人も多い。防災教育の側面を意識させながら、お年寄りの介助体験を行った。車いすの操作の仕方や、寝た状態からの起きあがらせ方、食事の介助の仕方などを体験した。いざというときにお年寄りの介助を手伝うことができる生徒になって欲しいと願っている。

生徒の感想

- ・花の里の人が介護について教えてくださいました。私の家のおじいちゃん、おばあちゃんは70後半、もしもの時は、私も手伝わなければいけないな。今、教えてもら

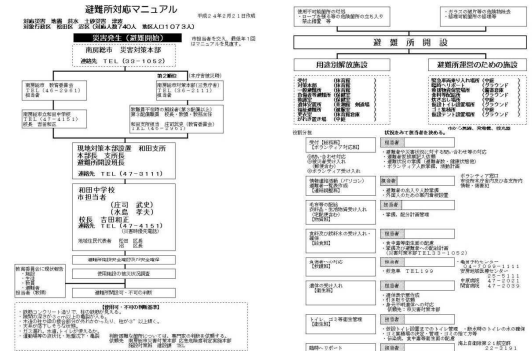
って助かった。

- ・何も見えない中でプリンを食べるのが怖いと思いました。いきなりプリンを出すのではなく声かけが大切だと思います。などの感想があった。

(6) 避難所開設マニュアル作成

平成24年2月21日実施

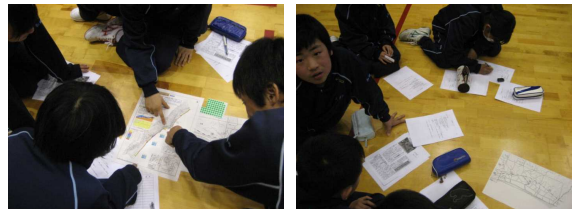
南房総市の防災担当者と避難所開設マニュアルについて検討した。開設に当たって職員の配置等、実際にできるかどうか課題となった。



(7) 安全マップづくり

平成24年4月11日実施

交通安全集会で交通安全マップとあわせて防災安全マップを作成した。昨年までの安全マップに通学途中の災害時の避難場所を付け加えた。



(防災安全マップ作成のようす)



(作成した防災安全マップを廊下に掲示)

(8) 預かり避難訓練

平成24年6月29日

南房総市の全小中学校で実施。

市内の全幼稚園・小・中学校において、千葉県東方沖を震源とする震度6強の地震を想定し、預かり避難訓練を実施した。

本校においても、①地震・津波を想定しての避難訓練 ②安全確保の方策及び発災時自分たちができることについての地区別生徒集会 ③保護者等への引き渡し訓練を実施した。

一次・二次避難行動、津波警報による三次避難行動(校舎3階に避難)の訓練を行った後、安全が確認されるまで学校で預かることを主眼に実施した。事前に保護者と生徒の引き取り方法を確認し、生徒を預かった後、引き渡しを実際に行う訓練を行った。



(一次避難行動・引き渡しのようす)

○地区別集会

避難訓練後、地区ごとに集まり『災害時に私たちができること』のテーマでさまざまな状況における各自の命を守る方策及び災害時にどのような地域貢献ができるかを話し合った。

成果

- ・生徒や保護者の意識付けの良い機会となった。
- ・引き渡しの際に予想される事柄について考え、実施可能な対応策を試すことができた。

課題

- ・車が集中した時間帯は駐車場及び国道へ

の出入りに困難をきたした。

- ・電波状況の悪さ(ワンセグ)及び電源の確保が大切。

その他

- ・実際の大津波警報時には、安房拓心高校へ避難しているため、迎えに来る保護者等に周知させる必要性を感じた。また、本校に情報を残す事を工夫する必要がある。
- ・車が使用できるかできないかで対応に大きな違いが出る事が予想できた。

我が家の「緊急・災害時の生徒の引き渡し」は、こうします。

現地での考えを家族内で相談の上、記入用紙にご記入ください。なお、学校は避難所となり、教職員はその仕事がありますので全生徒を自宅まで送り届けることはできませんことをご理解ください。

1 緊急災害時の我が子の引き取り方法について

① できるだけ早く家族の(〇〇)が学校まで引き取りに行きます。	② 警報等が解除された時点で自力で帰宅させてください。	③ 迎えが行くまで学校で預かっていてください。(遅くなりません)	④ その他
---------------------------------	-----------------------------	----------------------------------	-------

*引き取り人が決まっていましたらお名前・生徒との関係等をご記入ください

⑤ 引受人氏名 _____ 生徒との関係 _____

2 緊急災害時の家族間での約束を可能な範囲でお知らせください。

例① 家族の集合場所は 場所 和田小学校 です。

例② 緊急時の連絡方法は、 第1に 非常災害伝言板に連絡を入れる 第2に 自宅に戻れば分かる様にしておく 第3に 〇〇〇〇〇〇 です。

緊急災害時の引き取り等の報告書

年 組No. _____ 生徒氏名 _____

保護者名 _____

1 緊急災害時の我が子の引き取り方法について(該当する欄に○で記入)

番号	①	②	③	④具体的に記入ください。
回答欄				
引き取り人氏名	②を選択の場合は記入なし		生徒との関係 ③を選択の場合は記入なし	

2 緊急災害時の家族間での約束(可能な範囲で)

家族間の約束事
(1)
(2)
(3)
(4)

(緊急・災害時対応状況調査)

(9) 安房拓心高校合同避難訓練・防災教育講演会

平成24年9月3日実施

① 合同避難訓練

会場 千葉県立安房拓心高校

参加者 和田中学校生徒・職員131名

安房拓心高校生徒・職員509名

千葉県南部で震度6の地震発生を想定。

一次避難、二次避難(校庭に避難)、大津波警報発令により三次避難(安房拓心高校4階に避難)



(拓心高校へ避難する生徒たち)

校庭から拓心高校4階までの移動時間は6分44秒と昨年の約8分より早く避難を完了することができた。

② 防災教育講演会

講師：元福島県浪江町立浪江小学校長
半谷一芳先生

演題：「東日本大震災を体験して」

震災時、福島県双葉郡浪江町立浪江小学校長であった半谷一芳先生の講演を拓心高校の生徒と一緒に聞いた。地震と津波の恐ろしさ、避難生活の大変さ、原発事故による放射能汚染の理不尽さ等、現地の写真を交えての体験談を聞き、生徒は「ニュースより生々しく、あらためて怖さを感じた」等、防災意識を高めることができた。

(10) 防災教育講演会・教育ミニ集会

平成24年12月20日実施

会場 千葉県立安房拓心高校

① 防災教育講演会

参加者 安房拓心高校生徒職員509名
和田中学校生徒職員131名
防災教育担当構成員6名
地域住民30名

演題：「東日本大震災から学ぶ防災教育
・元禄地震から見えてくるもの」

講師：元東金高等学校長・元千高教研歴
史部会長 古山 豊先生

元禄地震による身近な和田町の被害の状況を石碑などの過去の記録から具体的に聞

くことにより、津波に対する意識を新たにすることができた。



(防災教育講演会のようす)

生徒の感想

防災教育講演会

3年B組 番氏名

感想

今日の防災教育で千葉県であった地震を
まよめてあるのを見て、私たちが産まれて
くる前にマケニキード8の地震があった
たなと思いました。石碑などにも地震が起きた
時の状況が書いてあったりと、知らないことがいっぱいあった。
あと、津波の速度におどろきました。津波がくるとわかたら
早くに逃げたいと思いました。



② 教育ミニ集会

テーマ「地域防災の現状と課題」

参加者 2校教職員44名

防災教育担当構成員6名

地域住民37名

ア 研究発表 安房拓心生徒による発表
「地震津波への対応～申し合わせ事項の
検証を通して～」

イ 分科会

「地域の防災の在り方」について現状
と課題を話し合う。

ウ 全体会

各分科会より代表者が発表。

成果

- ・学校教育における防災教育への取組では子供の発達段階に応じた体験的な訓練を通して主体的に動ける生徒を育成することを求めていることが再確認できた。自助、共助、公助の段階が大切であることがわかった。
- ・上記の学習を推進するに当たっては、想定に応じた場の設定を工夫することが大切であり、地域の実情に合わせた合同訓

練の実施について学校・地域がともに考える場ができた。

- ・ 区長、民生児童委員他、多くの地域関係者、保護者の参加が得られ、グループ別の活発な意見交換により児童生徒の安全のための公的施設の立地環境やもしもの時の対応について活発な意見交換ができた。
- ・ 地域防災意識の向上に向けた具体的な取組が期待される中、生徒が防災教育を受けることの重要性が再認識できた。
- ・ 学校、家庭、地域の相互の連携を一層深めることができた。

課題

- ・ 更なる防災教育への取組が必要（特に地域・各学校・保護者が連携した各種訓練の工夫が望まれる）であること。
 - ・ 避難場所の確保や備蓄品の確保とともに避難経路の表示やお年寄りの動線を想定しての施設づくりが必要であること。
- など

(11) 非常災害時用 PHS の増設

市教委より市内幼小中学校へ設置

3月11日の東日本大震災の教訓から、非常災害時にも使える連絡方法の確保として PHS 電話を設置した。PHS 回線は、災害時に固定電話や携帯電話の通話やメールが困難となっても、使用ができた実績があり、非常災害時に威力を発揮できるものと考えている。

(12) 非常災害時のメール配信システムへの登録

平成24年5月より非常時のメール配信システムの運用を開始した。

(13) 南房総市災害時職員配備計画による

集合訓練

平成23年7月26日実施

参集範囲：南房総市本庁・分庁配置者
各幼稚園・小学校・中学校配置者

（校長・教頭・教務主任・幼稚園教諭・用務員）

訓練内容：災害対策本部設置、第5配備
南房総市の災害時職員配置計画に基づき職員用安心メールにより第5配備（震度6強想定）による集合訓練を実施した。

6 成果と課題

成果

生徒たちは防災に関するいろいろな体験をすることにより、防災に対する意識の向上が見られた。3月11日の東日本大震災の避難やその後の余震の時の避難等実際の避難を数回行った経験から、2度にわたって安房拓心高校に避難したが、8分から6分と時間も短縮できた。防災訓練は生徒や教職員が災害発生時の状況をどうリアリティを持って想定することができるかが大切である。臨機応変に対応し、自らの命は自ら守り、無事生き残ったら災害時の大きな戦力となれる中学生になって欲しいと考えている。

課題

今回の防災訓練では、地域の方々と一緒に体験したが、地域ぐるみで防災意識の啓発や防災力の向上に取り組む必要がある。地域の方々とは防災について話し合う機会として、継続的に防災会議等を実施していく必要がある。また、防災活動をきっかけとして地域の方々との交流がよりいっそう活発になり、地域が一体感を持って、そこに暮らす人々を見守り互いに助け合う事ができる地域・学校を目指していきたい。